

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
スポーツ理学療法学		選択	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
粕山 達也 他	D311	kasuyama	月曜 10:30-12:00		
授業の目的・概要	スポーツ活動中によく認める障害・外傷の発生機序、理学診断・評価を理解（実践）する。また、傷害予防のためのトレーニングを指導する方法を習得する。スポーツ障害・外傷の発生機序、理学診断・評価、応急処置、理学療法、アスレティックリハビリテーションの一連の流れを説明する。各回の内容について、動画を含めて理解し、その後の課題を通じたフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、スポーツ傷害に関する理解を深める。				
学習上の助言	運動学の復習をしておくことが望ましい。				
教科書	スポーツ理学療法学 改定第2版 監修：陶山哲夫 編集：赤坂清和 /メジカルビュー社				
参考書	臨床スポーツ医学/著：Peter Brukner and Karim Khan/総監修：粕山日出樹/医学映像教育センター				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	スポーツ現場において発生頻度の高い傷害を説明できる。			OT(2)	
②	スポーツ外傷・障害に関する病態について説明できる。			OT(2)、(3)	
③	アスレティックリハビリテーションについて実施できる。			OT(2)、(3)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	「スポーツ傷害総論①」スポーツ活動における障害・外傷の理解、種目特性とリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	講義内容についてまとめる。		
2	「スポーツ傷害総論②」スポーツ活動における競技・障害別の臨床思考過程について学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	競技別に多い疾患について調べる。		
3	前十字靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	前十字靭帯損傷の病態について調べる。		
4	内側側副靭帯損傷および後十字靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	内側側副靭帯および後十字靭帯損傷の病態について調べる。		
5	足関節靭帯損傷のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	足関節靭帯損傷の病態について調べる。		
6	肉離れのアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	肉離れの病態について調べる。		
7	腱障害（膝蓋腱、アキレス腱）のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	腱障害（膝蓋腱、アキレス腱）の病態について調べる。		
8	頸椎疾患のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：遠藤]	同時双方向型授業	腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症の病態について調べる。		
9	腰痛疾患①（腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症）のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	筋筋膜性腰痛、仙腸関節障害の病態について調べる。		
10	腰痛疾患②（筋筋膜性腰痛、仙腸関節障害）のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	頸椎疾患の病態について調べる。		
11	投球障害のアスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	投球障害の病態について調べる。		
12	肩関節疾患（腱板損傷、肩関節脱臼）アスレティックリハビリテーションについて学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	腱板損傷、肩関節脱臼の病態について調べる。		
13	スポーツ現場におけるテーピング処置を学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	テーピングの巻き方について調べる。		
14	応急処置の知識と技術を学習する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	応急処置の手順について予習する。		
15	まとめを行い、本講義の理解度を確認する。[担当：粕山]	同時双方向型授業	講義全体のまとめをする。		
試	レポート・発表課題				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	100	0	0	0	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	30	0	0	0	30
	思考・推論・創造する力	0	30	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	10	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	各回の講義内容についてまとめたレポートを提出して評価する。疾患に関する病態、評価、治療の流れを簡潔にまとめる。				講義の開始時に毎回フィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎粕山 達也、遠藤 悠介</p> <p>教員の実務経験：理学療法士（整形外科診療所 臨床経験 6 年） 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（臨床経験 15 年、資格取得後 5 年）</p> <p>実践的授業の内容：実践的な授業内容：臨床現場に多い外傷・障害に関する講義に加えて、症例を提示した実践的な学習課題を提供する。また、学生自身のスポーツ経験を踏まえて競技特異的な障害について学習・発表を行い、理論と実践の統合的な指導を行う。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがあるため、通信量に十分に注意すること。 今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</p>							